

雲龍丸体験事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	教育庁	課名	教育振興課	課長名	穴吹憲男	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け	<input type="checkbox"/>	政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業 区分	<input type="checkbox"/> 国庫	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算	事業 開始 年度	H28 年度	事業終了 予定年度	H30 年度
関連する県の計画等		政策 [福井から人材育成]			<input checked="" type="checkbox"/> 県単		<input type="checkbox"/> 補助金	経過年数		1 年		
			[教育振興基本計画]			<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> その他					
[事業目的]												
大型実習船「雲龍丸」による福井の海での体験を通じ、福井の自然や水産業を学び、ふるさとに愛着を持つ子どもたちの育成等を図る。												
[事業内容]												
(1) 一般の方を対象とした沿岸観測公開調査 (1,867千円) アジ、サバ、イワシ、スルメイカ等の卵・稚魚・プランクトンを採集し、生態や分布量の公開調査を実施する。 ・対象 一般 ・実施日数 10日 (午前) (2) 親子を対象とした体験 (431千円) 沿岸観測調査結果を活用した海洋講座や自然観察等を通じて海や漁業について学習する。 ・対象 小中学生とその保護者 ・実施日数 10日 (午後) (3) 小中学生を対象とした体験 (3,268千円) 自然観察や操舵体験などを通じて海や漁業について学習をする。 ・対象 県内小中学校の児童生徒 ・実施日数 17日 (4) 高校生を対象とした体験 (407千円) 工業系高校生による大型船舶の機関・設備の実習をする。 ・対象 工業系県立高校の生徒 ・実施日数 3日 (5) 船内見学会 (2,392千円) 操舵室、教室、調理室、生徒室、魚倉、救命装置など遠洋漁業を行う漁船の構造をわかりやすく説明をしながら案内する。 ・実施日数 100日 (7月～9月、3月)												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移						8,365	8,365	8,365				
2月現計予算額の推移												
決算額の推移												
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	乗船者数 (見学会除く)	(目標)				(1,750)	(1,750)	(1,750)	・公開調査 20人×10航海=200人 ・親子体験 20×10航海=200人 ・小中学生体験 45人×27航海=1,215人 ・高校生体験 45人×3航海=135人 (計) 1,750人			
		実績										
活動指標	実施日数 (見学会除く)	(目標)				(30)	(30)	(30)	・公開調査、親子体験 10日 ・小中学生体験 17日 ・高校生体験 3日 (計) 30日			
		実績										
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体		県				
予算額	8,365				8,365	事業実施方法		直営				
						補助率						

事業評価

事業名	雲龍丸体験事業	部局名	教育庁	課名	教育振興課	課長名	穴吹憲男	
[事業の必要性・要求の背景]								
<p>旧小浜水産高校実習船「雲龍丸」は、平成26年3月に実習船との役割は終わったが、県内の漁船の中では大型船であることから利活用を求められている。そのため、福井の海での体験を通じて福井の自然や水産業への理解を深め、ふるさと福井への関心を高める。</p>								
[受益者]				[想定される受益者数]				
小中学校、高校の児童・生徒および一般				6,750人				
他県の状況	<p>○実習船の活用 新潟県は、能生町（現：糸魚川市）に「越山丸」を譲与（平成6年度） 能生町は、「越山丸」を資料館に改造し道の駅「能生」に併設</p> <p>○実習船の売却 H23売却 鳥海丸（山形県）35,000千円（経過年数 18年10月） 加能丸（石川県）74,700千円（経過年数 17年5月） 雄山丸（富山県）87,700千円（経過年数 9年6月） H25売却 船川丸（秋田県）22,050千円（経過年数 19年1月）</p>	前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 （実績） 平成26年度 雲龍丸乗船体験 一般公開 乗船者数 2,968人（実施日数 37日） 体験航海 乗船者数 177人（実施日数 4日（7航海））					
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 （役割分担）	市町との連携状況						
[事業の評価]								
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点			事業評価			
					<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
					<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
					<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

教育研究所移転整備事業（改修）

区分	拡充	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	教育庁	課名	教育振興課	課長名	穴吹憲男	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け	<input type="checkbox"/> 政推枠	ビジョン	[元気な社会]			事業 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国庫	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算	事業 開始 年度	H27 年度	事業終了 予定年度	H28 年度
関連する県の計画等		政策	[福井から人材育成]				<input checked="" type="checkbox"/> 県単	<input type="checkbox"/> 補助金				
			[教育振興基本計画]				<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> その他				
[事業目的]												
老朽化の進む教育研究所を春江工業高校に移転し、新たな教育課題に対応した研究や「ふくい教育」の発信などの機能を強化させることにより、教員の授業力・指導力の向上を進める。また、耐震工事が必要な自治研修所を同所に移転し、施設を有効利用する。												
[事業内容]												
(1) 春江工業高校の施設改修工事 ① 研修室の整備等 ② 自動車科実習棟の解体 ③ 駐車場整備 (2) 設備・備品の整備等 ① 教育博物館の整備（展示ケース、パネル、映像機器等） ② 教育研究所の機能強化にかかる設備・備品の整備（サイエンスラボの実験機器、研修用動画教材作成機器等） ③ 現教育研究所・自治研修所の設備・備品の移設 (3) 構内駐車場への進入路整備												
(単位：千円)												
区 分			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由		
当初予算額の推移							469,745			・ H27設計、H28に工事を実施するため予算額が増		
2月現計予算額の推移						6,802						
決算額の推移												
[成果指標等の推移]												
区 分			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	来館者数	(目標)						(5,000)	(5,000)	・ 生徒 約3,200人（理科実験、各種大会参加者） ・ 一般 約1,800人（講座参加者、県外視察者、一般来館者）		
		実績										
活動指標		(目標)										
		実績										
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県					
予算額	469,745	339,537			130,208	事業実施方法	直営					
						補助率						

事業評価

事業名	教育研究所移転整備事業（改修）	部局名	教育庁	課名	教育振興課	課長名	穴吹憲男
[事業の必要性・要求の背景]							
<p>国体を契機とし、老朽化の進む教育研究所をH28.3に閉校する春江工業高校に移転し、跡地については福井運動公園駐車場として整備する。教育研究所については、国内外の先端教育に携わる研究者との共同研究拠点、教員OBによる教員研修・生徒の進路相談等の機能強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井のトップレベルの教育を国内外に発信する教育博物館の整備 ・学校では行うことのできない高度な実験を発信するサイエンス・ラボに必要な施設・備品の整備など 							
[受益者]				[想定される受益者数]			
県内教員、県内小・中・高校の児童・生徒				90,000人			
他県の状況	<input type="radio"/> 香川県教育センター<旧 がん検診センターを改修（H27.5月開設）> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT研修室の新設 ・教育相談関係諸室の拡充 ・交流スペースの拡充 ・教育ライブラリーの拡充 	前事業の有無・実績		<input checked="" type="checkbox"/> 無		<input type="checkbox"/> 有	事業名
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 自治研修所移転整備（H28） （役割分担） 改修工事の実施設計・工事は教育研究所移転整備事業で行い、自治研修所にかかる備品等の移設は自治研修所移転整備で行う。	市町との連携状況		(実績)			
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
教育研究所移転整備の実施設計を実施（H27.9月補正）		教育課題の研究、研修の拠点としての機能を強化するとともに、新たに教育博物館を整備		<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
				<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
				<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	

スマート教育推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	シーリング	外	部局名	教育庁	課名	教育振興課	課長名	穴吹憲男	
福井ふるさと元気宣言 における位置付け	<input type="checkbox"/>	政推枠	ビジョン [元気な社会]			事業 区分	<input type="checkbox"/> 国庫	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算	事業 開始 年度	H26 年度	事業終了 予定年度	H28 年度
関連する県の計画等		政策	[福井から人材育成]				<input checked="" type="checkbox"/> 県単	<input type="checkbox"/> 補助金		経過年数		
			[教育振興基本計画]			<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> その他		3 年			
[事業目的]												
動画や音声など I C T 機器の長所を活かした英語の授業や予習型授業を導入するなど、授業内容の改善による生徒の学力向上につなげる。												
[事業内容]												
・タブレット端末やソフトなど必要な機器等の導入、整備を実施する。（平成28年度：タブレット546台整備）												
実践推進校（12校）においてタブレットを活用した授業を実証 [藤島、高志、丹生、福井商業、武生、若狭、若狭東、坂井、奥越明成、盲、奥越特支、高志中]												
[予算額の推移等] （単位：千円）												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	主な増減理由			
当初予算額の推移				62,748	68,177	75,874			高志中学校1、2年生へ導入することに伴う増			
2月現計予算額の推移				62,748	68,177							
決算額の推移				61,774								
[成果指標等の推移]												
区 分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	(目標) 実績								・3年間のタブレットを活用した実証事業である			
活動指標	実践推進校数			11	12	(12)						
[財源内訳・事業主体等]												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	事業主体	県					
予算額	75,874				75,874	事業実施方法	直営					
						補助率						

事業評価

事業名	スマート教育推進事業	部局名	教育庁	課名	教育振興課	課長名	穴吹憲男
[事業の必要性・要求の背景]							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本県では、小中高の教員が連携し授業研究および改善を行い、全国トップレベルの教育水準を築いてきた。現在、児童生徒一人ひとりが、より主体的に個々の能力を伸ばすことができる教育を進めるため、新しい教育モデルとなる授業改善を進めている。 ・ 全国的にICTを授業に活用する動きがあり、より効果的なICTの活用方法を検討することが重要。 ・ 文科省は、ICTの活用により、一斉指導による学び、一人ひとりの能力や特性に応じた学び、教えあい学び合う協働的な学びの推進が重要であるとしている。 							
[受益者] 実践推進校の生徒				[想定される受益者数] 約1,400人			
他県の状況	(佐賀県) 平成26年度から県立学校で毎年新生がタブレットを導入し、段階的に全生徒でのタブレットを使った授業を実施。			前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)		
関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 教育情報化推進事業 (役割分担) 普通教室に各2台、特別教室に6台にノートパソコンを整備			市町との連携状況			
[事業の評価]							
前年度の実績		実績を踏まえた28年度の変更点		事業評価			
H27：実践推進校12校にタブレットを導入（449台） H26：実践推進校11校にタブレットを導入（376台）				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額
				<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	
				<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	